

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200137		
法人名	株式会社 介護施設えくぼ		
事業所名	グループホームさくらつつみ		
所在地	岩手県宮古市田鎖第5地割33-4		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町村受理日	平成 24年 3月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390200137&SCD=320>

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23年 12月 12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎地域住民や地域との関わりを大事にしている。  
 ・学校行事や施設の催し物等でお互いに交流を図っている。  
 ・地域の方より地元で採れた、旬の野菜やお米、お花を日常的にいただいている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園を潤す長沢川堤の桜並木路の春は花見で賑わうなど、時季の変化が楽しめる恵まれた環境にある。事業所の階下に「小規模多機能センターさくらつつみ」が併設され、職員は、理念の具現化に向けた意義・役割を認識しており、住み慣れた地域でずっと家族との絆を保ちながら安心して暮らせるよう、協働するケアに取り組んでいる。運営推進会議においても、行政・教育・地域住民の参加による協議が、関係機関との連携や地域とのふれあい交流の後押しとなっている。一方、センター方式によって、その人にふさわしい援助、支援を計画化しているほか、音楽療法の場面では、歌う楽しさや表現の喜びを個々の理解につなげている。今後は更に、運営の透明性を高めながら、地域に根ざした相談、援助機関として、ともに共生する運営を目指したいとするリーダーのビジョンに共感を覚えた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム さくらつつみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎回、ミーティングで理念を唱和しており、職員一同共有のもと支援している。 人生の先輩であることを念頭に入れ、言葉づかいなど配慮して支援するように心がけている。	職員は、理念の意義・役割をしっかりと認識しており、その実践に向けた「私の心構え」を相互に話し合いながら、利用者との信頼関係を築くケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地域行事には参加している。学校との福祉教育事業として交流も行っている。	広報「かわら版」を回覧するなどホームの理解につなげ、地域の除草作業や散歩時の挨拶、ミニ農園作りの手伝いや差し入れ等、気軽に立ち寄りやすい雰囲気である。中学生の福祉体験を受け入れる等相互交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生には、認知についての勉強会を行い、車椅子移動の仕方など文化祭に向けて学びの場があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況や取組の状況を報告し、近隣の方々にもご参加いただき、災害時の対応の仕方などの情報を共有している。また、毎回参加者からの助言をいただき協力していただいている。	住民の施設見学や相談等の支援、利用者の状況等報告のほか、3月の災害を契機に新たな避難計画の策定、近隣住民との協力体制等について、2事業所のニーズと需要の変化に対応する会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活福祉課及び、地域包括支援センターには、利用者の状況や難しいケースなどを常に相談している。	生活困窮者の家族支援や不穏症状者への対応、制度上の問題について、担当者から助言やアドバイスを受けたり、入居依頼相談、運営やサービスの取り組み状況を伝えたり、広報を届けるなど協力関係を築く取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。 玄関などの施錠はしていない。 外に出たい利用者には散歩に付き添ったり、外出するように対応している。	職員は、抑圧のない自由な暮らしこそが拘束のない支援につながるという強い認識の下、身体拘束の弊害を認識している。特に小規模の夜勤者との連絡や連携で、利用者の安心・安眠につなげる協力体制がとられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてミーティング等で考える機会をもっている。 虐待はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で成年後見制度に関しては行っているが、馴染みのない言葉であり、職員は理解できていないかと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い同意を得ている。重要と思うこと（金額、個人情報など）は繰り返し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者家族等から要望・意見はほとんどないが、自宅訪問時や家族来所時に聞くようにしている。	話し易い雰囲気作りに努めているほか、自宅訪問はアセスメントと支援検討の機会としている。家族からは、誕生日のプレゼント相談や理美容院などの伺い等もあり対応支援している。なお今後アンケートによる聞き取りを実施したいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや必要時に職員からの意見を聞き、必要と思われることは反映させている。	定期的に職務内容や就業環境に関する意見や悩みを聴く機会を設け改善を図っている。職員の研修（資格取得等）、他ホームとの交換研修、勤務シフトは職員の事情優先のシフトとするなど意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場スタッフの努力、勤務状況等は把握している。可能な範囲で要望に応えている。働きやすい環境づくりには努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月行っている。 外部研修は、シフト等見ながら可能な限り機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の実習生の受け入れ交換を行い、資質向上を目指すとともに、法人全体でも外部から講師を招き行っている。 管理者は法人全体で交流し、わからないことや悩みなどを交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない場所での戸惑いの気持ちを察し、声掛けをしたり、傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時はほとんど本人により家族の困っていることから支援導入される傾向がある。家族の要望は充分取り入れられている。家族との関係づくりは良好と思っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの入退所の出入りはなく、家族の必要とするものは「独居での生活に不安」が前提であり、見守りできる中で支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として家事(掃除、茶碗洗い、洗濯物たたみ)をしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不穏時には家族に電話して話をしたり、一緒に外食したり、スタッフと一緒にお茶飲みし、情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容店や、行きつけだったラーメン屋などに行くように、支援に努めている	利用者家族の被災心情を察し、恒例の観光や外泊等を見合わせていることから、郷土芸能や近くの温泉に出かけたり、馴染みのラーメン屋に出かける等、できるだけ関係継続に努めるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格を考慮し、座席を配置して話相手になるように支援している。居室に自由に遊びに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年以降は、入院となった方は1名であるが、退院後は小規模を利用しており、支援継続している。開所より、過去に1名入院となったが、既に他界されている。それまでの間は、経過報告いただき、相談にのっていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行きたい所、入浴の順番、ソファがよい、食べたい物等、希望を聞いている。	開始時のアセスメントのほか、訪問時や家族との相談等から要望や意向の把握に努めている。センター方式の導入や音楽療法時の場面観察、表現・表情等の観察で利用者個々の理解につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔から他者との交流を好まず、自らお話しすることのない環境で生活してきた方においては、無理に交流させず、本人の意向を聞いて尊重している。本人のこだわりや暮らし方を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態を把握し、心身状況に応じた作業のお手伝いをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を状況に応じて作成している。	毎月のカンファレンスのほか、3ヶ月ごとに、家族や医師の意見等を念頭に、個々の暮らし支援経過記録「私の暮らしシート」をアセスメントしながら、状況に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送りを職員間で行い、情報を共有しながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助(特変)や家族との外出等、その時に応じて柔軟に対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の大掃除には施設周辺のゴミ拾いやお祭り、小、中学校などと交流を図り、このニーズに合った資源を活用できている。 馴染みの理髪店に出かけたり、近所の犬と時々散歩を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけを継続して通院している。職員が同行して医師に情報提供している。 家族が同行する場合もバイタル状況や経過を報告している。	本人・家族が希望する主治医で、受診時には職員も同行して情報提供し、家族への安心につなげている。特に耳鼻科・歯科受診は、継続支援となることから、指示書による個々の観察ポイントの把握に努め、薬の名称や副作用シートを用意する等勉強の機会も作っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々の状況を看護師に伝え指示をまわしている。 体調変化にも適切に対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は必ず病院訪問し、医療連携室に情報提供すると共に病院側からも情報いただき退院時には「入院時サマリー」をいただくなど情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての研修参加やマニュアル作成までは出来ているが、それぞれの主治医、家族等との具体的な話し合いまでには至っていない。希望があれば看取りの同意は得ており、対応していく。	契約時に、終末期における対応等についてマニュアルを基に説明をし了解を得ているが、今後本人家族の望む方向性を慎重に検討しながら、段階的に話し合いを進めていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生の研修など行ってはいるが、身につけているかは定かではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3～4ヶ月に1回、避難訓練を地域の方を交えて行い、全職員に避難できる方法を訓練している。訓練時にも地域4軒の方の協力がある。	地域の消防団員や推進委員、近隣の方々の参加を得て訓練しているほか、大震災を機に、地震対応マニュアルを作成し、避難・災害対策の充実向上に努めている。現在、スプリンクラー設置の工事中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人を尊重し支援している。 入浴の際にも女性職員希望の方には女性職員が入るようにしたり、最後浴の好きな方には最後に入浴していただくようにしている。	「尊厳に満ちた生活」は法人の目的であり、職員は、個々の安心や誇りにつながるような話題を引き出しながら、穏やかな中にも楽しく、喜びのある言葉かけや雰囲気作りに努め、失禁時には羞恥心への気遣いや言葉かけに気配りした対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の好きな食べ物を聞き、買い物に出かけたり一緒に調理をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お風呂に毎日入りたい利用者は毎日入浴していただいたり、散歩に行きたいという時には一緒にでかけるなど、本人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の着替え準備を利用者と共に行い服のコーディネートをしたり、化粧をする方にはしていただき、汚れない衣服を着用するよう気配りしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな物を聞き、買い物から調理まで一緒に行っている。	季節感や昔懐かしいもの、行事食等を取り入れた献立のほか、症状や体調に合わせた調理や盛り付け、食器等にも細やかな気配りがなされている。なお、食事への関心や充足感が得られるよう、食材の下ごしらえなど個々の能力を活かした支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェックし、本人に合わせた食事量を確保できるように支援している。少量しか摂取できない方には栄養補助食品を処方していただき、栄養面にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを全員行っている。自分でできる方は本人に、出来ない方には介助している。また、口臭のある方には、定期的に専門医を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間をチェックする等、定期的なトイレ誘導を行っている。また、本人の様子、訴えを見逃さずに誘導している。	排尿・排泄行為は、プライバシー、尊厳にも関わることから、見守りや声がけは、自立の利用者、介助を必要とする利用者を区別することなくチェックし、時間的・回数的なレベルやタイプに応じ適時支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い身体を運動したり、食べ物で繊維質の野菜を取り入れて予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大体の曜日は決まっているが、毎日入浴したい方や最後湯希望の方は長湯の好きな方と個々の希望通りに支援している。	入浴は、全身の観察や起居動作能力を知ることが出来ると共に、コミュニケーションの良い機会であり有効なケアの場として「ゆったり感」を感じさせるような支援のほか、疲労感や体力に問題ある場合には、部分清拭や手浴、足浴で対応し、保清と爽快感に配慮された支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベット、布団等生活習慣により好きな形態で就寝している。休みたい時は自由に休ませているが、判断力に欠ける方は様子を見ながら声掛けし配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の仕分けのもと、服薬している。薬が変更になった時には、服薬後の経過観察を行っている。グレープフルーツや納豆など食べ合わせにも配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皿洗い、掃除、洗たくたたみなど役割をもっていきいきと手伝ってくださっている。1人1人の生活歴を活かし、役所の職員だった方には決済事務所への訪問や一緒に食事や温泉に出かけるなどの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に行ったり、ラーメンを食べたい方にはラーメン屋に行ったり、お酒の敷きな方には家族来所時に外出し、酒を飲みに出掛ける等の環境づくりをしている。	長沢川の堤の桜並木路や近所の田園や畑作の観察など、恵まれた自然を活かした散歩・散策を日常化し、元気回復や楽しみにつなげている。震災被災者の心情を察し海岸観光等は行かず、家族の協力や理解に助けられながらのドライブや外食を楽しむ機会を作り、家族との絆を深める機会につながったとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、施設で預かっているが、外出時には渡し、病院や買い物での支払いを本人に行っていただいている。大金は使わないが、100円ショップでほしいものを買ったり、衣類は本人に選ばせるなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えで電話をかけたたり、送り物等届いた時に電話をしていただいたり、支援している。暑中見舞い等で家族や友人に各自近況を伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花を活けたり、トイレは1日3回は掃除をしており臭いもない。温度、湿度管理も配慮している。	2階故に採光と見晴らしに恵まれ、折々の変化を楽しめる環境にある。壁面には、季節を彩る生花やクリスマス共同作品等のほか、新聞・雑誌等のコーナー、ソファ、畳スペースなど、孤立の防止に配慮した配置など工夫されている。なお対面キッチンからは、各居室が見とおせ、声がけや見守りにつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭く、1人1人の居場所づくり確保は難しいが、気のあった利用者さん同士で席を近づけるなどの話ができる居場所提供支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンス、ベット、布団を使うなど配慮している。仏壇を居室に置き、職員と朝にご飯を供えたり、一緒に手を合わせる等支援する。尿意の近い利用者さんをトイレ近くの居室へ、音が気になる利用者さんは遠くへと配慮している。	使い慣れた整理箱や生活用品が持ち込まれ、配置や整理など利用者の出来ることを大切に支援のほか、壁面には、家族、ひ孫の写真や誕生祝の手紙等が飾られ、親族との絆が途切れないよう思い思いに過ごせる環境づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが居室近くにあることで、自分で場所を見つけいける範囲であること、夜間は照明をつけて場所がわかり歩行可の方は一人で行ける工夫。カーテン、間仕切りでプライバシー保護しながら安全確認が行われている。		